



こころにスマイル 未来創造パーク キングペンギンの赤ちゃんが誕生しました！



アドベンチャーワールド（和歌山県白浜町）では、2020年1月8日（水）にキングペンギンの赤ちゃんが誕生しました。当パークでは、親鳥の重みで赤ちゃんが潰されてしまわないよう、保育器で体重が卵と同じ重さ（約300g）になるまで人の手で育て、体力をつけてから親鳥の元へ返す「初期人工育雛」という方法で親鳥をサポートします。スタッフが親代わりとなりニシン、オキアミ、生クリームを流動状にしたものを与えており、ペンギン王国1階でご覧いただけます。誕生した赤ちゃんが無事育つよう、温かく見守ってください。

▶1月8日に誕生したキングペンギンの赤ちゃん
（2020年1月11日撮影）



【キングペンギンの赤ちゃんの成長について】

生後約3ヶ月後のキングペンギンの赤ちゃんは、脂肪を蓄えるために茶色のふわふわとした柔らかい羽毛に覆われ、親鳥よりも大きく見えるようになります。柔らかい羽毛は生後約6ヶ月で大人の羽根に生え変わり、自力で泳ぐことができるようになります。

▶茶色のふわふわの羽毛に覆われたキングペンギンの赤ちゃん
（生後約2ヶ月後）

【キングペンギンの赤ちゃんについて】

- 誕生日：2020年 1月 8日（水）
- 産卵日：2019年11月13日（水）
- 孵化日数：57日
- 性別：不明
- 出生体重：204g
- 両親：母親 2014年1月25日 アドベンチャーワールド生まれ
父親 2011年3月20日 アドベンチャーワールド生まれ
- 公開場所：ペンギン王国1階

※動物の体調により、公開時間を変更または休止する場合がございます。

※ 現在、この他にも6個の有精卵を確認しており、順調に成長すると、今年1月中旬から2月初旬かけて誕生予定です。



【キングペンギンの大人（成鳥）と赤ちゃん（ヒナ）の羽根の違い】



成羽(せいう)（成鳥の羽根）

羽根一本が二層になっており、羽軸の根本にはふわふわの「綿羽（めんう）」、上部の「羽弁（うべん）」は固く水をはじく構造です。

綿羽(めんう)（ヒナの羽根）

体温を保つための役割があります。ジェンツーペンギンやケープペンギンなどの小さなペンギンに比べて体が大きいため、1本1本の羽根が長いという特徴があります。

【次々と姿を変えるキングペンギン】



【アドベンチャーワールド ペンギンプロジェクトについて】

アドベンチャーワールドでは、現在8種類約450羽のペンギンが暮らしています。1978年の開園時にフンボルトペンギンとイワトビペンギンの飼育を開始し、1990年から自然界で暮らすペンギンコロニー（繁殖群）を再現すべく、「ペンギンプロジェクト」として本格的に飼育・繁殖研究に力を注いできました。アデリーペンギン、ヒゲペンギン、ジェンツーペンギン、キングペンギンと繁殖実績を積み、1997年に世界最大のペンギン、エンペラーペンギンの繁殖研究を開始しました。



【アドベンチャーワールド ペンギン繁殖実績について】

- 1978年：フンボルトペンギン初繁殖
- 1990年：アデリーペンギン、ヒゲペンギン、ジェンツーペンギンの卵を搬入 人工孵化、育雛を行う
- 1992年：キングペンギンの卵を搬入。人工孵化、育雛を行う
- 1994年：ジェンツーペンギン初繁殖
- 1995年：キングペンギン初繁殖
- 1996年：アデリーペンギン初繁殖
- 1997年：エンペラーペンギンの赤ちゃんを搬入、人工育雛を行う
- 1998年：ケープペンギン初繁殖
- 1999年：ヒゲペンギン初繁殖
- 2004年：世界でも2園館目となるエンペラーペンギンの繁殖に国内初成功
- 2005年：エンペラーペンギンの国内初繁殖に対して日本動物園水族館協会より「繁殖賞」を受賞
- 2006年：イワトビペンギン初繁殖。これにより国内最多となる8種類のペンギンの繁殖に成功

【キングペンギンについて】

- 分類：ペンギン目ペンギン科
- 学名：*Aptenodytes patagonicus*
- 英名：King Penguin
- 生息地：フォークランド諸島、サウスジョージア島などの亜南極圏
- 食性：アドベンチャーワールドでは主にホツケ、シシャモなど
- 繁殖：1度の繁殖で1個の卵を産み、足の上のせ腹部の皮（抱卵囊）をかぶせ、オスとメスが交代しながら52～56日抱卵する。
- 寿命：20～30年 ■体長：85～95cm ■体重：約15kg
- 特徴：頭や胸元の鮮やかな色が特徴。
名前の由来はエンペラーペンギンの発見まで最も大きなペンギンとされていたため、キング（オウサマ）ペンギンと名付けられた。